

科目名 Course Name	解剖学 Anatomy				ナンバリング No.	L1-005	
年次	1 年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	本庄 広大						
連絡先(質問等)	非常勤講師室						
必修/選択	選択(栄養士は必修)						
関連 DP	DP1 DP2						
授業の概要と到達目標	<p>人体の構造と機能の基本を習得し、細胞やそれが集まってできる大きな器官の主な名前と働きを理解する。さらに内臓の主要な構造と互いのつながりを理解すると共に、栄養士にとって不可欠な身体における栄養成分の利用について学習する。</p> <p>① 生体を取り巻く環境が常に変化している事を認識することができるようにする。</p> <p>② 生体を構成する細胞を取り巻く物理的・化学的・生物学的な環境の違いを分類することができるようにする。</p> <p>生体における食品及び栄養素の関与や関連を認識することができるようにする。</p>						
授業の方法	主に Power Pointを用いた講義形式。適宜、補助資料に書き込みをしながらグループディスカッションし理解を深める。						
学習成果	L01						
	L02	<p>① 栄養士資格を取得するうえで必要となる条件である「解剖学」に係る内容や働きについて具体的に解説することができる。</p> <p>② 体内の臓器の位置を具体的に正確に解説することができる。</p> <p>生体内の各部位、細胞、器官までの主な名称と働きを正確に分類することができる。</p>					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	講義の途中に問題を出題。模範解答を示して理解を深める。						
教科書/参考図書	<p>教科書 【Visual 栄養学テキスト 人体の構造と機能および疾病の成り立ち I 解剖生理学】 福島光夫 中山書店</p> <p>補助資料【ぬりえで学ぶヒトのからだ】佐藤達夫 安田康晴 パーソン書房</p>						
履修上の留意点やルール等	授業では触れなかった疑問を自分で調べ、不明な箇所は担当教員に質問すること。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の実務経験	職種: 医師 職歴: 通算 19 年(医師の立場から人体の構造と機能、栄養素との関連を説明する。)						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	講義の目的と内容をしっかり理解し積極的に参加している。		10		
レポート/作品	授業中に使用した補足資料を完成させている。		10		
発表					
小テスト					
試験	全出題項目が理解できている。		80		
その他					
合 計			100		

回数		授業計画
1	授業内容	授業の概要説明。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
2	授業内容	人体の概観について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
3	授業内容	骨格系の構造について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
4	授業内容	筋系の構造について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
5	授業内容	循環器系の構造について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
6	授業内容	呼吸器系の構造について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
7	授業内容	消化器系の構造について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
8	授業内容	腎泌尿器系の構造について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
9	授業内容	生殖器系の構造について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
10	授業内容	神経系の構造について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
11	授業内容	感覚器系の構造について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
12	授業内容	内分泌系の構造について学習する。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
13	授業内容	第2回目から12回目のまとめ。試験に向けた補足説明。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
14	授業内容	第2回目から12回目のまとめ。試験に向けた補足説明。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。
15	授業内容	第2回目から12回目のまとめ。試験に向けた補足説明。
	事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。